

## 特集「新しい社会を創る情報システム」の編集にあたって

畑山 満則<sup>1,a)</sup>

実社会の情報システムを扱う論文は、情報システムが置かれる組織や社会活動などの文脈との関係を分析・記述することが不可欠となり、理工学的アプローチと大きく異なる点に特徴がある。「情報システムと社会環境」研究会 (IS 研究会) では情報システム研究の普及と啓発に寄与すべく、2003 年以来、毎年情報システム論文の特集号を企画し、良質な論文を採録してきた。

本特集では、過去の特集号と同様の情報システムの分析・設計・構築・運用、情報やデータの管理などの理論と実践、情報システムと人間・組織・社会との相互関連、さまざまな組織における情報化ニーズをとらえた新しい情報システムの提案や実践的な開発事例などの広範な対象範囲の論文を採用することをねらいとした。

投稿された論文は 17 件 (取り下げ 1 件を含む) と予定より少ないものの、様々な応用領域における論文が投稿された。採択率は目標の 50% に対し、採録数は 6 件で 37.5% (取り下げは除く) となり目標を下回ったが、幅広い分野から十分な質の論文を掲載することができたと考えている。

採録された論文の専門性は、情報システムの業務分析手法・運用管理からプライバシー保護に至るまで情報システム構築における重要な部分をカバーするものであった。情報システムの対象領域は、企業活動から情報教育、防災対策まで多岐にわたり、評価手法として従来の量的評価だけでなく質的評価が加わってこれまで取り上げられることなかった新領域を開拓できたとともに、特集号名として謳った「新しい社会への創造」へ繋がったと考えている。

情報システム論文は対象とする範囲がきわめて広いこともあり、論文としての有効性の評価や正確性を確保することが難しい。このような課題に対する 1 つの試みとして、IS 研究会では、従来から広く用いられている量的評価の枠組みに加えて、質的評価の枠組みについて検討し、その査読基準に関する文書を公開している。本特集号では、質的研究論文の査読にあたり、査読者にこの文書の閲覧を依頼しており、これまでよりも査読基準の統一性が図られている。また、投稿締切り直前の研究会においては、特集号への投稿を促す意図も含めて、質疑の時間を長めにとった

セッションを企画するなど、投稿論文の質・量の向上に向けて取り組んだ。今後も、執筆者が情報システム開発事例における新規性や有用性の示し方、量的・質的評価方法について、より具体的に学べる仕掛けを検討していきたい。これらの地道な活動が、情報システムの発展に寄与することを期待している。

最後に、本特集号を出版する上でご協力いただいた特集号編集委員、厳しいスケジュールの中で公平かつ丁寧に査読していただいた査読者、スケジュール管理を含めて様々な支援をしていただいた学会担当者の方々に心より感謝いたします。

「新しい社会を創る情報システム」特集号編集委員会

- 編集長  
畑山満則 (京都大学)
- 編集委員 (五十音順)  
阿部昭博 (岩手県立大学)  
大場みち子 (はこだて未来大学)  
柿崎淑郎 (東京電機大学)  
金田重郎 (同志社大学)  
兼宗 進 (大阪電気通信大学)  
神沼靖子 (情報処理学会フェロー)  
児玉公信 (情報システム総研)  
辻 秀一 (東海大学)  
刀川 眞 (室蘭工業大学)  
富澤真樹 (前橋工科大学)  
樋地正浩 (日立東日本)  
由井蘭隆也 (北陸先端科学技術大学院大学)

<sup>1</sup> 京都大学防災研究所  
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University,  
Uji, Kyoto 611-0011, Japan

a) hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp